

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 108

2012年2月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

公開炭焼講座への参加の皆さん

里山の原風景 紫煙たなびく炭焼小屋

雑木林応援隊 雨宮廣之

十二月の広報で年明け八日の炭焼き講座を募集しました。人気のツルカゴ教室の募集は、広報が届いたその日の朝から電話が鳴り始め、ほぼ二日で募集定員を超えるのですが、炭焼きの場合、スロースタートとなるのが常でした。

ところが、今回は初日から順調に参加申し込みが入り、約一週間で定員ちようどとなる盛況ぶりとなりました。中には、わざわざ市役所に問い合わせた電話を入れて頂いた方もあります。

昨年は、東日本大震災に台風豪雨と、嫌なことが有りましたが、その裏返しでしょうか、正月明けの一日を、のんびり炭を焼いて過ごしたい・・・そんな意識の表れかも知れません。

講座募集ではいつも女性の積極性が目立ちますが、今回も半数以上が女性です。

はじめに、炭焼きと里山保全の関係を少しお話させて頂き、後は七組に分かれ、それぞれの組に我が隊のベテランが丁寧にアドバイスしていきます。応援隊を卒業したMさんも手伝いに来て頂いています。

この時期ですので、土は凍っています。簡単には掘れませんので、昨日の暖かい日中に掘ってあります。サービスマスの炭焼きとなりました。

七組に分かれるとどうしても競争意識が働きます。急がずにのんびりと炭焼きを楽しんで貰いたいので、途中で声をかけ、「皆さん、梅のつぼみがいっぱい付いていますよ」とか、「失敗しても大丈夫です。お土産は焼いてありますから・・・」とか、森での休日を満喫して貰えるようにしています。

この炭焼き講座は、木炭を窯で焼く場合の中日に時間がとれるために定期的に開催しているのですが、木炭を焼く場合、約四日必要となります。四日目の昼頃に完全に閉めるのですが、夜は大きな薪を三個ほど置いて、火事にならない様にカバーをして、帰るしかありません。出来るだけ窯の温度を下げたくないので、どうしても翌朝は早くに窯を開けることとなります。

今回のお伝えしたことは、まだ真っ暗な森で、一人で炭焼きの焚火の前で、コーヒーを飲みながら、ゆっくり過ごす時間の楽しさでした。天気は晴れで、この炭焼きの日々は、満月が出ていました。まだ空には満天の星が見える時、焚火のオレンジ色の炎を見ながら色々な事をボーと考えています。やがてゆっくりと明るくなっていき、気がつくと鳥が鳴き始めます。

本当にきれいな森を見ることが出来ます。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告

街路樹

チーム街路樹20 受託事業報告

小野 正一

ロマンチーム活動報告

ロマンチームは「チーム街路樹20」に所属しますが、今年度で三年目をむかえました。秋の紅葉を自然のままに楽しみたい、春の若葉、秋の黄葉・紅葉など四季折々の自然の変化を感じたいという思いから、市緑化推進課の課長さんを始めとする担当者との調整を経て、落ち葉掻き清掃活動を始めました。今年度は昨年と同じく図書館前歩道と市役所隣近隣歩道の二箇所で開催しましたが、街路樹の葉の量、形が昨年度と比べて大きく異なりました。その理由は、市が樹木剪定方法を変更したからです。具体的に言うと、出来るだけ新緑、紅葉を楽しむため剪定を少なく適正にして、かつ、落葉後に剪定したことです。それまでの市内の秋の景観は、「緑の町牛久」とスローガンを提唱していましたが、他の自治体と比べて殺風景な街並みでした。この剪定方法変更によって、春の若葉、夏の繁茂、日陰そして秋の紅葉を楽しむことが



近隣公園、ボランティアも参加して
増田 11.12.10

出来たのではないかと、思いがたかと思いません。



図書館前、落葉も終盤へ
増田 11.11.30

図書館入り口前の樹ですが、読書する人たちを歓迎するためなのか、日当たりが良いための分かります。活動開始日は十月二十六日（水）からでしたが、今年は新鮮な活動でした。前年の剪定が適切であったため、紅葉は少し遅れたものの見事な紅葉並木でした。これ以上に嬉しかったことは「活動に参加したい」と、多くのサポーターの人達に参加したことでした。

一番若い人は何と高校生でした。「ボランティア活動に興味があるので、参加しました」若い人が参加すると、私たちも活力満々、元気になりました。これも、日頃の地道な活動と情報提供のためでしょうか。

この街路樹の歩道は、文化祭、菊祭り、合唱大会などの芸術の秋、読書の秋を楽しむ市民の往来の多い道です。そして紅葉を楽しむ道でした。多くの人との出会いがあり、「おはようございます」

『「苦労様」の優しい言葉もありました。』

二月十日（土）から市役所近隣公園脇へ活動場所を変更しました。メタセコイアの見事な黄褐色の並木が待っていました。しかし、図書館前の枯葉と違い、細く、小さく、広く落ちるためホウキでかき集めなければなりません。そのため、竹ホウキが威力を発揮しますが、緑化推進課の担当者が新兵器を用意していました。「チリトリ捨棄」というゴミ袋付き塵取りで、なかなか面白い道具でいろいろ工夫して試行し楽しみました。



この場所の特徴は、朝の散歩の人、自転車通行の人が図書館前と比べて少ないこと、公園の散歩の時や市役所などに来る人が通るくらいなので、木枯らしが吹き、大変寒くなる時期には一段と人通りが少ないことが残念です。



お知らせポスター



巨木リサーチ事業報告

平塚 芳雄

平成二十三年度「樹木ガイド」活動を終えて

去る十二月四日（日）今年度第二回目の樹木ガイド（牛久の樹木探訪会）を実施しました。当日は晴天、気温も暖か、しかし強風が吹きました。一般応募参加者は二十名（当初応募者男性十二、女性十三、計二十五名）、市緑化推進課二名、里山の会四名の総勢二十六名の参加でした。市のバス一台で予定の九時に市役所を出発。

探訪先、久野町の観音寺では今を盛りのイチヨウ、モミジなどの紅葉・黄葉、巨木のカヤなどを案内、鹿島神社飛地では市民の木でもある古木スダジイを案内、タケの生き方の解説。ここでは強風のため枯れ枝が落下、参加者の右腕に当たりヒヤットとする場面も。



一旦、奥野生涯学習センターに戻りトイレ休憩後、桂町へ。集落入口で下車、集落内を徒歩で金剛院へ移動。途中、傷みの激しい旧「市民の木」の「ハククヌギ」を観察、桂川の土手が望めるビューポイントでは、里山の会メンバーの戸塚さんが菜の花が咲き乱れる頃、ここで撮った写真を使い田園景観を解説。金剛院では少し最盛期を過ぎてはいたが、参道から境内に続く何本ものモミジの紅葉に迎えられました。境内には鎌倉権五郎景政の碑があります。この地の伝承に基づく顕彰碑です。金剛院から徒歩五、六分程の桂川沿いの栗園には墓地もあり、権五郎に関して説明。金剛院から権五郎の墓地へは徒歩で移動、風が強く墓地では長居をせず田んぼ道を辿りバ

スに戻り帰途へ、ほぼ予定通り十二時二十分過ぎ無事に市役所に帰着。これを以て今年度のガイド活動を終了しました。

樹木ガイドはスタートした平成二十一年度は三回、同二十二年度二回、三年目の今年も二回実施し、応募参加者は延べ二百名弱になります。このガイド活動は市緑化推進課が参加者募集、バスの手配、現地との交渉等を実施し、案内すべき内容の確定、説明資料の作成及び当日の案内役は里山の会が分担しています。

樹木ガイドでは、巨木リサーチ事業の活動成果を市民へ広報、樹木を主に牛久の自然の現況を市民に知らせることを目的に進めています。その効果を高めるため、探訪会で単に見て終わりということではなく、後で考えたり、調べたい時役に立つように配布資料の作成などで工夫努力しています。

また、毎回のアンケート結果では好意的な意見が多いのですが、年々応募者が減少傾向にあるので、その要因の把握と対応も欠かせません。適切なガイド内容や回数等を考えながら来年度の計画を固めたいと思います。



鎌倉権五郎景政の墓碑の説明をする
著者 戸塚 11.12.4



あやめ園受託事業報告

坂 弘毅

アヤメ園一年で一番静かなとき

うしく里山の会が牛久市から牛久観光アヤメ園の管理業務の受託を受けてから丸七年が経過しました。この間、圃場は徐々に拡大し、広大なアヤメ園となりました。

毎年十二月中旬～二月中旬までが冬休み（作業休止）。二月後半から作業が始まります。最初は、牛糞堆肥の施肥から始まり、池のスイレン除去、そして芽だし時期に合わせて施肥。それから長い一年となります。霜が降りる前まで除草との闘いです。

五月に入ると、新芽は日ごとに大きくなり、芽を傷つけないように除草作業には慎重さが求められます。この時期になると、アヤメ園の一角に集められた本当の「アヤメ」が咲き出します。全体の一割にも満たないのですが、その渋さはハナシヨウブと違う良さがあります。

六月はハナシヨウブの開花です。最初の開花から約二週間は開花期になります。この間、多くの来園者の目を楽しませてくれます。

開花中は花柄摘みも欠かせません。萎れた花を取り去ることで、ハナシヨウブの美しさを持続させます。



真っ白に凍てつくあやめ園

この時期に来園される方々から、「きれいに咲きましたね」「苦豆様です」等々、励ましの言葉を頂くときが至福の時です。

そして、この時期だけ毎日パステル画を描きに来てくれるおじさん、俳句の会の皆さん、犬の散歩途中に声を掛けてくれる、通称「さいごーさん」皆さんアヤメ園のサポーターといえる人びとの存在も忘れることが出来ません。

そして、開花も峠を越した頃、本格的な除草が始まります。そして、猛暑の夏には株分けが待っています。この時期が一番辛いときで、二リットルの水筒が半日も持たず、麦わら帽子に水を掛け、頭を水で冷やしながらか作業をこなすという過酷な環境です。株分けが終わる頃には、雑草は腰の高さまで伸び、ハナシヨウブがどこにあるのかが分からないほどの「雑草の原」に変わっています。これからの除草は体力を使いますが、きれいになることで疲れも吹き飛びます。

アヤメプロジェクトのメンバーは六月の開花を夢見て、毎年気持ちの良い汗を流しています。そのアヤメ園の現在は、一年で一番静かな時です。写真のように凍てつき、まるで雪が積もったように真っ白。池も圃場も園路も凍り付いています。こんなに寒くても、地面の下ではハナシヨウブの根は順調に育ち、東風（こち）が吹く春を心待ちにしていることでしょう。



雑木林応援隊

雨宮 廣之

お花炭を楽しむ

巻頭にも紹介しましたが、応援隊では「公開炭焼き講座」を定期的に行っています。缶で竹炭を焼くのですが、あいまにお花炭を焼いて楽しみます。もう皆さんは十分にございましょうが、松ぼっくり、クリ、南天、ドングリ等々、形をそのままに残して炭にして楽しむ方法です。お菓子の空き缶、お茶筒等を利用して作る飾り炭ですが、初めての方には、結構感動して貰える作品に仕上がります。

今までは、焚火の上に缶を置いて焼いていたのですが、結構難しいところがあり、まだらになったり、焼きすぎたりと、タイミング、火力等の熟練が必要でした。ところが、簡単に焼けそうな方法を思いついた仲間がいました。

昨年の東日本大震災で、大谷石の塀が倒れ、その残骸が捨てられているのを見つけたので、関係先に許可を頂き、程度の良さそうな物を集めて置きました。理由は、その廃材を利用して、石窯を作ることでした。あくまでも廃材の再利用ですので、あちこち隙間が開いており、うまく熱を保つてくれる心配されました。



見事に焼けたお花炭

何度かの試運転後に、今回の「公開炭焼き講座」を迎えたのですが、石窯の威力はスゴイの一言でした。熱が廻りからまんべんなく当たるためか、お花炭の出来映えが素晴らしいのです。焼き時間も五分から十分と短く、均一に出来るのが何よりです。

当日は昼食後にお花炭を始めましたが皆さん、夢中になって順番待ちとなりました。

南天の枝の仕上がりは、樹氷の様な出来映えです。昨年の事ですが、竹細工をしていたSさんが、活動中の炭屋に来て、竹で作った花器を炭にしてくれ、と言われた事があります。竹細工を炭、若しくは炭様にする事は、以前より考えて試した事もありましたが、非常に難しいのです。

花器として使うことを考えると、表面だけが炭になっっているのが最適と思われるので、焚き火で焼いたり、バーナーで焼き色を付けたりしたのですが、なかなかうまく行きませんでした。

そこで、今回の石窯を試して見ることを考えています。石窯でも難しいとは思いますが、有る程度の強度を持った炭様の花器に、お花墨が入っていると、非常に趣があると考えています。

Sさんは昨年亡くなってしまいました。頼まれた事ですので、いつかは完成させていきたいと思います。



里山自然観察隊

秋山 侃

寒さに強い草を見つける

植生モニタリング城中コースの調査を一月十四日（土）に実施した。城中コースでは3kmあまりの観測コースを十三の地区に分けて、毎月それぞれの地区で、蕾、花、実（種子）を付けている植物をリストアップしている。このところ快晴続きだったが、気温は連日零下になっている。

今回も日陰に入ると霜柱がざくざくと音を立てた。さすがにこうなると緑の植物は少なく、蕾や花のあるものは限られた。寒さに強い（耐寒性）植物だけが残っていると思われるので、それを比較してみた。一月に蕾花実のどれかを付けている植物の延べ出現種数は二百程度で、当地区最多期（十月、四百七十七）の四十二％に減少していた。先月と比較しても全出現数は約三百から二百へと減少した。しかしそのほとんどは、カラスウリやアメリカセンダングサのように、実（種子）の状態である。延べ二百のうち七十四（三十七％）はシダ植物で、シダ植物には常緑性が多いため、生存植物の出現数が減る冬期に相対的にシダ植物の割合が高まる。

今回、花が咲いていた草本植物は全部で十三種（延べ二十九）だった。このうちスズメノカタビラは四月から今月まですべての月で花が記録され、耐寒・耐暑のオールマイティー植物といえる。ホトケノザ、オオイヌノフグリは群落を作り、日溜まりで早々と花を咲かせて元気に見えるが、来月にはもつと賑やかになっただけだ。ついでオランダミミナグサ、ハコベ、タネツケバナ、ノボロギク、ヒメオドリコソウなども寒さに強い植物である。

ヤブタバコ、ヤブタバコ、ハハコグサ、セイタカアワダチソウ、ナズナ、オニノゲシは秋からの生き残り



春を待つ里山風景

花を付けているように見えた。先月咲いていたヒメジョオンはついに枯れた。

シダ植物については、被子植物とは違った基準で調べてきた。被子植物の花にあたる胞子が出来ているかどうかを記録する。今回各地区で記録されたシダ植物の総数は七十四（二十三種）で、このうち常緑性のシダが十六種、夏緑性が六種、冬緑性が一種だった。ベニシダ、ヤマイタチシダ、ヤブソテツ、オオバノイノモトソウなどが多くの地区に出現する常緑シダで、胞子も残っている。

夏緑性の六種ではミドリヒメワラビやシケシダが半分枯れながらうじて生きていた。カニクサは一応夏緑性だが、条件の良いところでは緑色を保って越冬する。唯一の冬緑性のフユノハナワラビは今年度二地区で見つかったが、残念ながら胞子葉は出ていなかった。



親子農業体験講座

前田 直之

森と畑で出会うのも

この親子農業体験講座は、もちろん農業体験を主としていますが、それに加えて自然と関わる楽しさも味わうことができます。年間を通しての活動なので、季節の移ろいに応じて多くの生き物と出会うことが出来ます。今までに出会った生き物たちを紹介します。

毎回レギュラーの如く出てくるのがカエルたち。アマガエルが一番の常連です。子どもたちはアマガエルを見つけると、われ先に捕獲し始めます。ときには奪い合いの様相も。さといもの葉の上によくいますが、水玉といっしょにいるその姿は、とても絵になります。そして今年はずつまいもを掘っているときに突然出会ったヒキガエル。どうみても冬眠し始めた様子のところを掘り起こしてしまっただよう

触つてもなかなか動かず迷惑そうに睨まれましたが、子どもたちは構わずにいじりまわしていました。最終的には穴を掘って埋めてみましたが、その埋めたところもいじられていました。その後どうなったのでしょうか。



クツワムシもきます

昆虫類も多くいます。バッタ類も常連です。種類が多いので端折りますが、シヨウリヨウバッタ、コオキギは子どもたちの遊び相手です。たくさん捕まえておられ、数匹はかわいそうな状況になっています。また、カマキリたちも同様にかわいそうなことになっています。

カナヘビ、ニホントカゲ、蛇も見かけます。動きが素早いので、あっとい間に消えてしまいます。ぬけがらを残していることもあります。

動物たちの中では、姿は見えないけれど存在がわかるモグラ。ところどころに盛り土が残っているとかがあります。さつまいも堀りのとき、たまに顔を出す野ネズミ親子。さつまいもをかじっていたのでしようか、ご飯時だったのかもかもしれません。野ねずみ親子で大パニック。人間親子もパニック。親ねずみは子ねずみをそっこので大逃走、子ねずみもわけわからず大逃走。うまく出会えることを願いました。

これらの出会いが楽しくて、この活動に参加しているのが本音かもしれません。子どもそっこのけで楽しんでいる姿を見られているでしょう。生き物たちに、大きな子どもがいた、と言われているかもしれませんね。

私と「うしく里山の会」の関わり

第七回目

理事 渡辺 泰

入会から現在まで

平成十六年春、里山の会へ入会し、現在は牛久市協働事業「巨木リサーチ事業」の代表として活動を行っています。これまでの経過を振り返ってみます。

退職後、「牛久植物誌」の作成を思い立ち、手初めに十三年春、「四季の里地里山植物」の表題でホームページを立上げました。その掲載植物の撮影のため、観察の森へ通っていた折の十五年春、柳下さん（現牛久市役所建設部緑化推進課）から、高野さんが代表の「里山歩き」事業の助言者として、植物名の講師を依頼されたのが里山の会を知った最初でした。

要請を受け、月一〜二回観察会に参加し、結果をA四版にまとめて配布する活動を継続し、十九年度から事業名が「里山自然観察隊」、代表が平塚さんに替り、活動目的を「牛久域小野川流域の雑木林及び稲収穫跡の植物相調査」に絞り、三年間実施した結果、「種の多様性」が保全されている場所があることが確認され、その要因解明と雑木林管理法や稲栽培法の実証が重要な課題であることが分りました。

十八年一月、巨木等を調べ刊行物とするための「巨木リサーチ事業」を構想し、理事会へ計画書を提出し、承認されました。三月一日、坂代表理事から牛久市長宛に協働事業実施の要望書を提出し、承諾を得ました。そして、「広報うしく」の応募者が八名に達し四月二十三日、二十三名出席の下に発足会議を開きました。この取組で、当時の観察の森の柳下さん・斎藤さん、里山の会の増田さん他、多くの関係者のご協力により発足できたと感謝しています。

プロジェクトの設定には、「問題の場」にある複数のトピックから、参加者の興味を前提とし、社会的意義があり、手持ちの人的・予算的能力で所定期間内に解明または解決可能なものを選定・課題化して、目的を明確にし、それに沿った推進計画を策定・運営することが重要とされています。この考えで、「巨木リサーチ事業」三年間の計画を企画し、推進することになりました。市緑化推進課の適切な協働作業と参加者の精力的な活動とが相まって、ほぼ計画通り、巨樹一四六本の幹周・樹高他の調査を実施することができました。この間をフェーズ1としました。

フェーズ1の成果の市民への広報及び、調査木の診断・管理活動をフェーズ2と位置付け、二十年十一月緑化推進課へ二年間の延長要望書を提出、承認を得て推進しました。そのかたわら、成果物の編集に取組み、五十八箇所・六十七本を掲載した市民向けの「牛久の巨樹」、及び五年間の活動を総括した「牛久市協働事業巨木リサーチ事業報告書」を緑化推進課の支援と編集委員会の尽力でまとめることができました。現在は二年延長中で、里山景観の構成要素の中核をなす木本植物に着目し、自生約百三十種から身近な八十種を選び、「牛久里山樹木ハンドブック」の編集に取組んでいるところと

ころです。



管理活動 上柏田日枝神社境内の古木ウワミズザクラをマダケの藪から救出する作業 右は「市民の木No.6 スタジイ」



結末町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

「エコアップ作戦」参加者募集のお知らせ

牛久市結末町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結末町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

二月の活動日時

三日(金) 午前九時～十一時

十九日(日) 午後一時～三時

(冬季のため時間短縮)

集合：牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

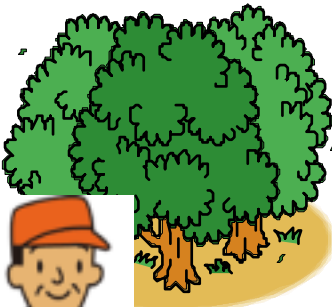
予約不要/荒天時は中止

(ホームページに情報掲載)

持ち物：長靴、軍手(長袖、長スボン)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ

問い合わせ先：029-874-6800 担当：石神



牛久自然観察の森だより

チーフコーディネーター 齊藤 孝

ネイチャーセンター内の土砂洗浄

昨年三月の震災以降、観察の森ネイチャーセンターは土足利用の状態が続いています。元々は入口でスリッパに履き替えての利用が主でしたが、本会が指定管理者になった六年前から、高齢の方々の団体利用時等において、その都度、土足利用を許可してきた経緯があります。



震災当日も、たまたま同様の団体の利用があり、ネイチャーセンターは土足での利用が行える状態で、このおかげで本震の大きな揺れが始まる前に全来館者・職員が速やかに屋外に避難することが出来ました。

以来、約十一月に渡り、余震の影響を考慮しての土足利用が行われてきました。この結果、地震に伴う避難誘導には良い効果がある一方、野外から放射性物質の付着した土砂を靴が運び入れてしまうことも分かってきました。

小学校団体など数百名単位での来館後は、館内の土砂清掃に時間を要する事もしばしばでしたが、昨年よりケルヒャー社製の自動床洗浄機をリース導入した結果、それまでよりも作業効率・見栄えともに良いものとなっています。

また、同時期に導入した落葉・刈草集塵機も、職員の野外での作業時間短縮と被ばく量低減に大きく貢献しています。今後施設利用者・業務従事者の被ばく量低減がより一層進むよう、除染作業共々、工夫を重ねていきたいと思えます。会員の皆様からのアドバイスをお待ちしております。



ミズキ科アオキ属の常緑低木で、日本特産。本州(中国地方を除く)・四国(東部)の林内に自生する。牛久市内では斜面林や林縁でよく見られる。また栽培が容易で、日陰にもよく育つため、庭園や公園に植えられている。日本

国外でも青い葉と赤い実が愛好され、広く栽植されている。

高さは二mほど。花は三〜五月に咲く。雌雄異株。枝先に円錐花序を伸ばし、花は径八〜十mm。紫褐色の四枚の花弁が平開する。雄花序は大きく、長さ五〜十五cm、雌花序は小さく、長さ二〜五cm。果実は写真のように楕円形、核果で、長さ二cmほどで、種子を一個含み、秋から赤く熟し、十一月〜翌年五月頃までついている。果実の色や葉の斑入りなどが異なる様々な園芸品種がある。

北海道・本州の日本海側の山地には、小型の変種ヒメアオキが自生する。

葉には苦味健胃作用があり、有名な漢方薬「陀羅尼助・だらにすけ」に配合されている。

名前の由来は、常緑で枝も青いことに由来する。属名の「*avicula*」は、「アオキバ」の方



真赤なアオキの実

言名で、十八世紀中頃に日本に滞在した植物学者・医者ツンベルクの命名である。(戸塚昌宏)

2012年 2月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 里山保全ボランティア 9:00NC クラブプロジェクト 13:00NC	4
5	6 (休園日)	7 森の畑 13:30畑	8	9	10	11 (建国記念日) 里山自然観察隊 (モニタリング) 里地調査 9:00得月院
12 雑木林応援隊 9:00ムジナ (会報等原稿×切)	13 (休園日)	14 (休園日)	15 (休園日)	16 フォトコンテスト 第2次審査 13:30NC	17 クラブプロジェクト 13:00NC	18
19 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC 里山保全ボランティア 13:00NC	20 (休園日)	21 森の畑 13:30畑	22	23	24	25 巨木サーチ2(特) (巨木調査) 9:00市役所 チーム'街路20(受 13:00ボランティアC (交流会)
26 雑木林応援隊 9:00ムジナ	27 (休園日)	28 森の畑 13:30畑 会報発送 13:00NC	29			

活動日は天候等により変更となる場合があります。

最新情報はホームページをご確認ください。

【凡例】

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場の畑
コジュケイ: 牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
市役所脇: 市役所隣の近隣公園
ボランティアC: 牛久市ボランティア
市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受): 委託事業
(特): 特別事業



編集後記

近くを散歩しながらラジオを聞いていたら、つくばにある独立行政法人「農業環境技術研究所」で日本の空き地を侵略しているセイダカアワダチソウ(背高泡立草)を衰退させ、在来種のチガヤやススキが復活する技術を開発したと放送していた。

セイダカアワダチソウはアルカリ化した土壌を好み蔓延したとのこと。方法は塩化アルミニウムを散布することで、水と反応して土壌を酸性化させる。実験では二・三年でチガヤやススキ・ヨモギ等の群落へ変わってきたようである。日本の土地は元々酸性土壌であるため在来種には問題がないとのこと。

セイダカアワダチソウは北アメリカ原産で、日本へは明治時代末期に園芸目的に持ち込まれた。またセイダカアワダチソウは、根から周囲の植物の成長を抑制する化学物質を出し、これによって自身の成長も抑制してしまおうようである。また一時花粉症の元凶と考えられていたが、風媒花でなく虫媒花であるため花粉の量は少なく比較的重いため、風では飛散しないようである。

映画やテレビの時代劇を観ていると、時々セイダカアワダチソウが映っていることがあるらしい。映画の撮影でも自然の知識を求められるようだ。

逆の立場の植物もある。それは日本でも最近余りにも繁殖の著しいマメ科の「クズ(葛)」。秋の七草の一つ。多年草で根は十〜十五cm程の太さまでなり葛粉の原料となり飛鳥時代頃から食べられていた。

そのクズが北アメリカでは、日本から庭園装飾用として、また緑化や土壌流出防止用として持ち込まれたものが想像以上の繁茂拡散をし、今は有害植物及び侵略的外来種に指定されている。自然の掟を破るのは人間であり、一旦崩れた生態系を回復させるのは不可能に近い。

里山を愛する私達ももっともって関心を持たなければならぬ。
佐藤 輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年3月号の発送は2月28日(火)発送の予定です。うしく里山の会ホームページではカラーの会報を見ることができますので是非ご覧下さい。また会報に対するご意見や皆さまからのご投稿をお待ちしております。メールのアドレスは(u-satoyama@jcom.home.ne.jp)です。